

# 四字熟語と日本語の慣用句の語順について

—— 「東西南北」・「前後左右」・「表裏一体」など ——

林 伸 一

## 1. はじめに

日本語の成句・慣用句 (idiom) に関しては、言い習わしとされて、語順の問題は、これまで詳細には検討されてこなかった。特に、四字熟語と日本語の慣用句の語順の関係については、先行研究が見当たらない。

たとえば、「東西南北」「古今東西」などと「東→西」という語順で言うのに、どうして「西も東もわからない」となると、語順が逆転し、「西→東」という語順になるのか。

同様に、「前後左右」「上下左右」などと言うのに「右も左もわからない」となると語順が逆転するのは何故か。また、「表裏一体」と言うが「裏表がある」と逆転するのは何故か。

本稿では、このような音読みの漢字熟語と訓読みの慣用句の間の差異について隠れた規則性・法則性はないのか、具体例を挙げながら検討したい。

## 2. 先行研究

林 (2015) は列挙・例示の書き表し方について検討する中で、「AもBも」の文型には、「草も木も枯れる」「右も左もわからない」「西も東もわからない」など成句的、慣用的な用法があると、次のように問題提起している。

「西も東もわからない」は「その土地に初めて来て無案内であること」を表現している。さらに意味が拡張して「物事を理解する力が全くない。また、どうしたらよいかわからない」という場合にも用いられ、「西も東もわからない子供」などと表現することもある。

「古今東西」「東西南北」といった漢字熟語になると「東→西」という語順が固定しているのに、何故か「東も西もわからない」とは言わず、「西も東もわからない」となる。

慣用表現の「右も左もわからない」も同様である。「上下左右」「前後左右」といった熟語になると「左→右」と語順が固定しているのに、何故か「左も右もわからない」とは言わずに「右も左もわからない」となる。

音読みの漢字熟語と訓読みの成句の差異であろうか。「西 (にし: 2拍) も東 (ひがし: 3拍) も」と「右 (みぎ: 2拍) も左 (ひだり: 3拍) も」は、ともに2拍語を先に出し、3拍語を後回しにするという語の言いやすさとリズム感が関係しているという説がある。

## 3. 「東西南北」「古今東西」と言うのに、どうして「西も東もわからない」なのか

### 3.1 「西も東もわからない」

金田一 (2001) によると「西も東もわからない」には次の二つの意味用法があるとされる。

(2)

- ① その土地の方角や事情が、全く分からないようです。[用例] 初めて来た町なので、西も東もわからなくて、うろうろしてしまいました。
- ② 物事を判断する力がないようです。[用例] 西も東もわからない小さな子に、いくら説明しても無理だよ。

金田一(2001)には、「西も東もわからない」の英語の類句として、次の文例が示されている。

I can't tell east from west. (東と西が区別できない)

そこで、「西も東も分からない」がどれだけ日本語特有の慣用句かを調べるために英語、フランス語、中国語の翻訳を探してみた。検索結果は、次の通りである。

I've no idea where I am. (研究社『新和英中辞典』)

I am a total stranger here. (研究社『新和英中辞典』)

Also I do not know east west (英語グーグル翻訳)

Aussi je ne sais pas est-ouest. (仏語グーグル翻訳)

此外，我不知道东，西<Ciwài, wǒ bù zhīdào dōng, xī> (ビジネス向け Google 翻訳)

研究社『新和英中辞典』では、「西も東も分からない」に当たる翻訳には、方位を表す「西も東も」は用いられておらず、英語、フランス語、中国語の「グーグル翻訳」には直訳的に行方は用いられているが、「東➡西」という語順で訳されている点が興味深い。

### 3.2 「古今東西」と「古今中外」

ちなみに「古今東西 (ここんとうざい)」は、「昔から今までと、東西四方のあらゆる所。いつでも、どこでも」の意で、三省堂『大辞林 (第三版)』には「古今東西の文学に通じている」といった例文が示されている。「古い昔➡今」というベクトルは、太陽が東から昇り、西に沈むという方向性を持った時間軸のベクトルと同様に、ごく自然な順序性の表現と言えるであろう。

「古今 (ここん)」ではなく、「古今 (こきん)」と読むと「①昔と今。ここん。」だけでなく「②『古今和歌集』の略」の意味に限定されてくる。(三省堂『大辞林 (第三版)』参照)

さらに日本語の「古今東西」に当たる中国語は「古今中外」<gū jīn zhōng wài>で、「(事物の範囲が) 古今東西にわたる、古今中外にわたる、昔も今も、国内でも国外でも」となる。日本語では「東西」と方位をもって表現するところを中国語では「中外」と表現するところが異なり、文化的な発想の違いという観点から、興味深い。

### 3.3 東西線・南北線と南北問題・南北朝時代<Nán Běi cháo shí dài>

地下鉄の東西線・南北線など固有名詞として用いられる場合においても「東➡西」「南➡北」という語順となっている。(東京メトロ、仙台市地下鉄、札幌市交通局)

政治や経済・歴史の分野でも、「東西冷戦」「東西関係」「南北問題」「南北朝時代」など「東➡西」「南➡北」という語順が用いられている。ただし、南北問題は、英語にすると NORTH-

SOUTH DIVIDEとなり、「南→北」の語順が逆転し、「北→南」の語順となる。

そもそも「東西南北」は、英語ではNORTH, SOUTH, EAST, AND WESTの順で言う。つまり「北南東西」である。英語だけでなく、ドイツ語などのヨーロッパ言語も同様である。中国語では「東南西北」である。次に示す図2の「十二支と方位」の東から時計回りに言う形となる。

南北問題は、1960年代に入って指摘されるようになった問題で、先進資本主義国（北）と発展途上国（南）の経済格差とその是正をめぐる議論がなされてきた。「豊かな国が世界地図上の北側に、貧しい国が南側に偏っていることから南北問題と呼ばれる」とウィキペディアには説明されている。(https://ja.wikipedia.org/wiki/: 2017年9月検索)

説明文中の順序は「北側→南側」となっているのに、何故か「南北問題」と言われる。

「南北朝時代」は、次のように日本の場合①と中国の場合②があり、それぞれ時代が異なる。

- ① 後醍醐天皇が京都より吉野へ入った1336年から、後亀山天皇が京都へ帰る1392年までの、京都に持明院統の北朝と、吉野に後醍醐天皇の南朝との二つの朝廷が対立した時代。荘園制の衰退、守護領国制の展開、農民の成長と郷村制の伸展など、大きな社会的変動が続いた時代。吉野時代。
- ② 五～六世紀、中国で漢民族の南朝と鮮卑族を中心とした北朝とが対立した時代。南朝は420年成立の宋から齊・梁（りょう）・陳（ちん）、北朝は439年華北を統一した北魏（ほくぎ）から東魏・西魏・北齊・北周の諸王朝。589年隋により統一。（『大辞林（第三版）』より）

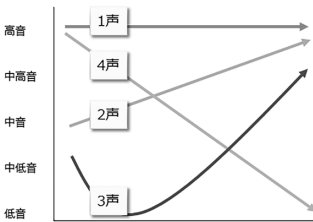


図1. 中国語の四声

中国の南北朝時代の「南北」<Nán Bèi>は、2声→3声で、上がり下がり関係から連続して発音しやすいとの説がある。

四声と語の繋がりについて検討してみる必要があるだろうが、ここでは紙面の都合上、割愛し、図1を示すにとどめたい。

### 3.4 「東西南北」と「犬が西向きゃ尾は東」

「犬が西向きゃ尾は東」も諺として「当たり前すぎるほど当たり前であることのとえ」として用いられる。類句としては、「北に近ければ南に遠い」「雨の降る日は天気が悪い」などがある。（『故事ことわざ辞典』http://kotowaza-allguide.com）

「犬が西向きゃ尾は東」も西と東を入れ替えて「東→西」の語順で「犬が東向きゃ尾は西」と言ってもよさそうなものだが、なぜか「西→東」の語順で言い慣わされている。

この例は、前述したように「西（にし：2拍）」対

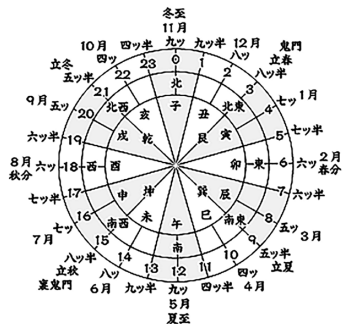


図2. 十二支と方位

して「東（ひがし：3拍）」と2拍語を先に出し、3拍語を後回しにするという語の言いやすさが関係しているという説を裏付けている。

犬は十二支の戌（いぬ）で、戌は西方を示すから、犬が東では理屈が通らないとの説もある。ただし、図2に示すように西は酉（とり）で、戌は西北西に当たる。何故、鳥ではなく犬を用いた表現が慣用語となったのであろう。その点、次に示す英語表現では、カラスという鳥を用いて表現している。

When the crow flies, her tail follows.（カラスが飛ぶとき、後ろには必ずしっぽがある）

日本語の「犬」が「カラス」に置き換わっただけで発想は酷似している。ただし、英語の場合には、十二支と関係しないためか、「西」や「東」のような方角を示す語が用いられていない。（図2の出典：<http://www.kuu-kikaku.jp/rekishi/jikoku-etc.html#houi>）

#### 4. 「上下左右」「前後左右」というのに、どうして「右も左もわからない」なのか

音読みの漢字熟語と訓読みの成句の差異かという点と「右往左往」や「右顧左眄」など「左→右」の語順ではなく「右→左」の語順になる四字熟語がある。

『デジタル大辞泉』によれば、「右往左往」は「うろたえてあっちへ行ったりこっちへ来たりすること。あわてふためいて混乱したさまをいう」とされ、例文としては、「会場を探して右往左往する」「火に追われて右往左往する」などがある。つまり「混乱義」と言っているであろう。

「右顧左眄」は、「右を見たり左を見たり、あたりの情勢をうかがってばかりいて、決断しないこと」の意で、例文としては、「右顧左眄して評価を下せない」「いたずらに右顧左眄する」などがある。（『デジタル大辞泉』参照）

ちなみに「眄」の漢字は、漢音で「ベン」、呉音で「メン」となり、「①かえりみる。あわれむ。②流し目で見ると。横目で見ると」の意がある。「眄」は、常用漢字外の漢字で、近年は用いられなくなっている。

「右往左往」と「右顧左眄」に共通する点は、「右○左○」という形式の四字熟語というだけでなく、即決即断できずに、混乱し、迷っているマイナス・イメージの表現である点にある。

##### 4.1 「右顧左眄」と「左顧右眄」

「右顧左眄」が中国古典で最初に出てきた時は、「右」と「左」が逆で「左顧右眄」であった。更に意味とイメージも対照的であった。

「左顧右眄」の初出は、三国志の魏の詩人、曹植が友人の呉季重に宛てた書簡文『呉季重に與（あた）ふるの書』である。曹植は曹操（ソウソウ：武帝）の第三子で、その書簡は、六朝時代に編まれた『文選』（モンゼン）に収められている。

「左顧右眄して、人無きが如しと謂ふ。豈（あに）、吾子（ゴシ）の壮志に非（あら）ずや」（あなたが左右を見回す様子は、傍（かたわ）らに人なきがごとしのように思われました。なんと雄大な志ではありませんか。）

「右顧左眄」は、優柔不断のマイナスイメージの表現であるのに対して、「左顧右眄」の方は雄大なプラスイメージの褒め言葉として用いられたようだ。「左→右」の語順が「右→左」の

語順になると語のイメージがプラスからマイナスに逆転している点が興味深い。

もっとも現在では、「左顧右眄」も「右顧左眄」と同様に「周りを気にして、なかなか決断を下さないこと。他人の様子をうかがって、決断をためらうこと。左を見たり右を見たりする意から」とされている。現代では、「もとは、ゆったりと得意で余裕のある様子をいった語」（『新明解四字熟語辞典』）であったことが忘れ去られようとしている。

#### 4.2 「左右に揺れる」と英語の<roll [sway] from side to side>

日本語では、「左右に揺れる」と言うが、英語では該当する表現が<roll [sway] from side to side>となり、「左」や「右」のような方向を示す語が用いられていない。

同じく「前後左右に揺れる」も英語では<pitch and roll>となる。具体的な例文としては「揺籃（ゆりかご）は左右に揺れる」<A cradle rocks from side to side.>や、「船が左右に揺れる」<A ship rolls (from side to side).>などがある。（『斎藤和英大辞典』より）

「左右に揺れる」と音読みで言う場合と訓読みで「右に左に揺れる」と言う場合では、やはり語順が「左➡右」から「右➡左」へと逆転する。

#### 4.3 「右に左に受け流して」

「右に左に受け流して」は、『Weblio類語辞書』（<http://thesaurus.weblio.jp/>）によると「相手の指摘などをうまくかわすさま」であり、次のような類語表現がある。

「のりくらりと／巧みに言い逃れて／巧みにはぐらかして／のれんに腕押し／柳に風の」

前述の「右顧左眄」の、「右を見たり左を見たり、あたりの情勢をうかがってばかりいて、決断しないこと」と通底する要素がある。

そもそも「道がくねくねと曲がっているさま」を表す表現として、「右に左にカーブする・右に左に曲がりくねる・左右にカーブする・左右に曲がりくねる」などがある。訓読みする場合は「右に左に」と「右➡左」の順で言うが、音読みの「左右」の場合には、「左➡右」の順になる。ちなみに「右に左に曲がりくねる」は、山道の形容などに用いられ、日光の「いろは坂」のようなジグザグ状の「つづら折り」（九十九折り）を連想することもあろうが、英語では<snake road（蛇のように曲がりくねった道）>と表現される。

#### 4.4 「右に行くか左に行くか」

成句や慣用句とまでは認定されないかもしれないが、「分かれ道で右に行くか左に行くか」とか「二手に分かれた道で右に行くか左に行くか」などと迷う場合の表現として「右➡左」の語順で表現が固定化しているように見受けられる。派生的に、多数決で決める場面などでも「右に行くか左に行くか」などと右派の道を選択するのか、左派の道を選択するのか、迷うような場合の表現としても用いられる。

取り扱い説明書や動作の手順を示す場合などにも、以下の①から③に示すように「右➡左」の順で表現されていることが多い。

- ① 「ドローンを横方向に移動させるといった『平面座標』を制御するための動きです。右スティックを右に倒すと機体が右に傾き右移動し、左に倒すと機体が左に傾き左移動し ...」

(「ドローン初心者へ」<https://droneagent.jp/flights/propo-drone>)

- ② 「当たり方によって右に左にいきますが、さっきまで空振りを繰り返していた私には当ただけで嬉しさがこみ上げます」(「usagisanの初心者からのゴルフ上達ブログ」より  
[http://blog.livedoor.jp/sy\\_usagisan/archives/10339847.html](http://blog.livedoor.jp/sy_usagisan/archives/10339847.html))
- ③ 「右側に痛みがある場合は、壁に左ひじをつき、左にお尻を壁側にずらす。左側に痛みがある場合は、壁に右ひじをつき、右にお尻を壁側にずらす。」(「腰痛が1週間で改善 壁ドン体操 髓核を中心に戻す 銅冶英雄先生<http://bkprs.com/yotsu-kabedontaiso/>」)

#### 4.5 「左右(さゆう)」と「右左(みぎひだり)」

「左右(さゆう)」は、文字通り「ひだりとみぎ」のはずだが、『新明解国語辞典(第七版)』では「みぎとひだり」の語順で記述されており、例文としては「言を左右にする〔あいまいな事ばかり言う〕」が示されている。「床屋政談」などもこれに含まれると思われる。

「右左(みぎひだり)」の方は、文字通り「右と左」と記述されている。例文としては「右左に別れる」が示されている。さらに「右と左を取り違えること。逆。」の意があることが記述されており、「足袋(タビ)が右左だ」が例文として挙げられている。(『新明解国語辞典(第七版)』)

「〇〇が右左だ」は「足袋」だけでなく、「靴下」や「靴」「手袋」などの場合にも使える。

音読みの「言を左右(さゆう)にする」は「あいまい義」となり、「右左(みぎひだり)」と訓読みにするとあべこべの「取り違え義」になる点が、興味深い。また「左右(さゆう)」と音読みにすると「あいまい義」だけでなく、もともとは秩序・規範として正しく、「右左(みぎひだり)」と訓読みにすると、秩序・規範を取り違え、逆になるとも言える。(注1)

#### 4.6 「前後左右」と「後ろ前(うしろまえ)」

『大辞林(第三版)』によると「後ろ前」は「後ろと前とが逆になること。特に、衣服などの後ろと前とが逆になること」と記載されており、「セーターを後ろ前に着る」という文例が示されている。用例としては、洋服などのほかにも「帽子を後ろ前にかぶる」などがある。いずれも、「右左」のように「取り違え義」になり、マイナスイメージである。

インターネット上に写真付きで、次のような例が見られた。

「NHKの近江友里恵アナが服を後ろ前逆に着こなしてた。普通の着方より可愛いんだけど!!!」([pic.twitter.com/dUmcw31juV](http://pic.twitter.com/dUmcw31juV))。このように「後ろ前」を意識的なファッションとした場合には、結果的にプラスイメージとなる場合もあるだろう。

#### 4.7 「前後(ぜんご)」と「後先(あとさき)」

小学館『デジタル大辞泉』「後先(あとさき)」の意味と用例は、次の通りである。

- ① ある場所の前と後ろ。前後。[用例] 後先を見回す
- ② ある時点の前と後。過去と将来。前後の事情。[用例] 後先の考えもなく着手する
- ③ 物事の順序。また、筋道。[用例] 後先を取り違える

『デジタル大辞泉』には、「後先(あとさき)」を含む慣用語としては、次の3例がある。

- ① 後先無し：自分の行動とその結果についての思慮がない。  
[用例] 後先無しに予算を使う。
- ② 後先になる：1) 後になったり、先になったりする。2) 後のものが先になり、先のものが後になる。順序が逆になる。[用例] 話が後先になる。
- ③ 後先見ず：前後の事情を考えず無分別に振る舞うようす。  
[用例] 後先見ずの行動。後先見ずに突進する。

上記①「後先無し」と③「後先見ず」は、いずれも否定的な意味合いの表現と結びつき、いわば「無計画義」であり、②「後先になる」は、「逆順序義」「混乱義」と言えるであろう。

『大辞林（第三版）』には、「後先無し（あとさきなし）」の語義として「前後の見境がない」とし、用例は「葉子は後先無しにかう心の中で叫んだが（『或る女』有島武郎）」を示している。

同辞書には、「後先（こうせん）」と音読みの見出し語も提示し、語義として「おくれることと先んじること。あとさき。前後。先後。」を挙げている。「後先（こうせん）を争う」を用例としている。

「先後（せんご）」と音読みにする見出し語が『大辞林（第三版）』『デジタル大辞泉』に掲載されている。『デジタル大辞泉』には「先後（せんご）」は「名詞」および（スル）をつけて動詞として用いられることを示している。「先後（せんご）」の意味記述と用例は次の通りである。

- ① 時や順序の、さきとあと。また、ものの順序。あとさき。せんこう。「先後を乱す」
- ② さきとあとの順序にほとんど差がないこと。また、順序が逆になること。「着信が先後する」

「話が後先（あとさき）になる」と「話が先後（せんご）する」を比べてみると訓読みと音読みの差だけでなく後接する動詞が「なる」と「する」に分かれる。両者ともに「話が前後する」とほぼ同義で用いられ、「逆順序義」「混乱義」と言えるであろう。

#### 4.8 「後へも先へも行かぬ」

金田一（2001）によると「後（あと）へも先（さき）へも行（い）かぬ」は、「物事が行き止まってどうにもできないようす」で「財産を使い果たして後へも先へも行かなくなってしまった」という用例を挙げている。英語での類句として次の文例をあげている。

You can't go forward, and you can't back up. (先へ進めないし、後へも引けない。)

日本語での語順が「後➡先」であるのに対して、英語の場合は「先➡後」の順になっている。「西も東もわからない」「右も左もわからない」同様、うろろう、まごまごして先へ進めない様子が、共通しており、「○へも▽へも・・・ない」と否定表現と結びつく点も類似している。

#### 5. 「表裏一体（ひょうりいったい）」と「裏表（うらおもて）がある」

三省堂『大辞林』によると「表裏一体」は、「相反するかに見える二つのものが、根本では密接につながっていること。また、その関係」とある。用例としては、「表裏一体をなすもの」や「表裏一体の間柄」「表裏一体になる」などがある。いずれにしても、まとまり感、統一感がある。ただし、中国語には「表里不一」<biǎo lǐ bù yī>という成句があり、「陰ひなたがあ

る、人の思想と言行が一致しない」という意で用いられている。「里」は「裏」の簡体字)

日本語の「表裏一体」の文例としては、「今、公文の心にひっかかったのは、まさに協子の言った言葉と表裏一体をなす、不安と恐れだった。」(曾野綾子『木枯しの庭』)

「表裏一体」の英語表現は、<two sides of the same coin>となり、具体的なコインにたとえた表現になる。(『Weblio Email例イメージの文集』より)

ほかの表現の用例としては、次のような文例がある。

「兄と弟は表裏一体となって働いた」<The brothers worked in close cooperation.> (研究社『新和英中辞典』より)

「富貴とは表裏一体の商売をしようという意味」<Fuki means to do a business that is like two sides of the same coin.> (『Wikipedia日英京都関連文書対訳コーパス』より)

一方、「裏表がある」は「その人の性格や考え方が、表面と内情で違うことを意味する表現」とある。(『実用日本語表現辞典』URL <http://www.practical-japanese.com/>参照)

そもそも音読みの「表裏(ひょうり)」と訓読みの「裏表(うらおもて)」で、イメージの差もある。「表裏」の方が中立的で、「裏表」の方がマイナス・イメージを含んでいる。

小学館『デジタル大辞泉』には、「裏表」の語義が以下の六つに分けて示されている。

- ① 物の表面と裏面。「紙の裏表」
- ② 表面に現れている事柄と裏に隠されている事情。表面と内情。「業界の裏表に通じている」
- ③ 一つの事柄が呈する、一見異なって見える二つの様相。「過保護も放任も親の自信の無さの裏表である」
- ④ 人の見ているところと見ていないところとで、態度・行動が違うこと。かげひなた。「裏表ある人間」
- ⑤ 裏を表側にすること。裏返し。「靴下を裏表にはく」
- ⑥ 裏と表ほどかけ離れていること。全然違うこと。正反対。

「其の事は愚僧も聞いていますが、世間の沙汰とは裏表」(浄・八百屋お七)

以上の①は、中立的なイメージであるが、それ以外は、マイナス・イメージを含んでいる。

「裏表がある人」は、「接する相手の性別や地位・年齢などによって、態度や話し方、雰囲気などが大幅に変わる人」で、人間関係や態度の一貫性がなく、マイナス・イメージと言える。

その一方で、「裏表がない人」は、「相手の性別や地位、年齢に関わらず、どんな人にも同じような態度で接することが多いと言われています。自分より目上の人であっても、反対意見などはしっかり言いますし、部下や後輩などの自分より弱い立場の人にも、偉ぶったり威圧的な態度を取ったりしません」(IT人材のためのキャリアライフスタイルマガジンMayonez [マヨネーズ] 参照)。

時には上司などから「生意気だ」と感じられ、目を付けられてしまうこともあるかもしれないが、誰にでも同じように接するその様子は、多くの人が潔いと感じるため、プラスイメージと言えるであろう。



## 6. 「山海珍味」と「海千山千」、「鑄山煮海」と「海のものとも山のものともつかない」

### 6.1 「山海珍味（さんかいのちんみ）」と「海千山千（うみせんやません）」

『四字熟語辞典オンライン』（2013-2017）によると「山海珍味（さんかいのちんみ）」は次のように記されている。「山と海で採れた物から作られた、珍しい味のする食べ物。または、非常に豪華な料理のこと」で、プラスイメージの熟語とされる。

一方、「海千山千（うみせんやません）」については、「物事の裏も表も知り尽くすほど様々な経験をしたことで、悪い知恵が働くようになること。または、そのようなずる賢いことと人のこと」とされ、マイナスイメージの熟語である。その語源は「海に千年、山に千年住んだ蛇は竜（龍）になるという伝説から」とされ、「蛇から龍へ」のイメージアップが含まれているとも考えられる。しかし、出発点の「蛇」のマイナスイメージが払拭される訳ではない。

金田一（2001）には、「海千山千」の類句として、「海に千年河に千年」「煮ても焼いても食えぬ」「一筋縄ではいかない」が挙げられており、英語の類句として＜An old fox is not easily snared.（老いた狐はやすやすとは罠にかからない）＞を示している。日本語の類句と英語の類句の共通点は、否定表現で結んでいる点にある。日本語の「蛇から龍へ」のイメージと英語の「狐」のイメージの違いが文化的な背景の違いによる文化差と言えるであろう。

「山海珍味（さんかいのちんみ）」と「海千山千（うみせんやません）」では、「山→海」が「海→山」と語順が変わり、音読みから訓読みになって、イメージもプラスからマイナスに変わっている。「山」（やま・サン）と「海」（うみ・カイ）は、音読み・訓読み共に二拍語なので、拍数の少ないものを先に出すという説には、当てはまらない。

ちなみに「山海の珍味」と同義の中国語は、「山珍海味」＜shān zhēn hǎi wèi＞である。

### 6.2 「鑄山煮海（ちゅうさんしゃかい）」と「海のものとも山のものともつかない」

『四字熟語辞典オンライン』（2013-2017）によると「鑄山煮海（ちゅうさんしゃかい／ちゅうざんしゃかい）」は次のように記されている。

「たくさんの財産を蓄えること。または、山や海の資源が豊かなこと。『鑄山』は山から銅を採掘して銅貨を作ること。『煮海』は海水を煮て塩を作ること。『山に鑄、海に煮る』とも読む」。その出典は『史記』とされる。山や海の資源が豊かなことを表すプラスイメージの熟語である。

白水社『中国語辞典』には「靠山吃山 靠海吃海」＜kào shān chī shān kào hǎi chī hǎi＞（山に近ければ山で暮らしを立て、海に近ければ海で暮らしを立てる）という成句があるが、「鑄山煮海」に通じるような意味を持ち得るし、「山→海」の順である点が共通している。

一方、「海（うみ）のものとも山（やま）のものともつかない」の方は、「実際のどのようなものか分からない、得体の知れない」といった意味合いの言い回しで、「わけのわからない物」あるいは「馬の骨」などで言い換え可能な場合が多い。やや文語的に「海のものとも山のものともつかぬ」と言う場合も多い。（『実用日本語表現辞典』URL <http://www.practical-japanese.com/>参照）

「鑄山煮海（ちゅうさんしゃかい）」と「海（うみ）のものとも山（やま）のものともつかない」では、前項同様「山→海」が「海→山」と語順が変わり、音読みから訓読みになって、イメージもプラスからマイナスに変わっている。「鑄山煮海」の方は、「山＝銅」「海＝塩」と物

が特定されるのに対して、「海のものとも山のものともつかない」の方は、物の出所や正体が不明で「わけのわからない物」とされる。

ちなみに「ジョンはその仕事に似つかわしい人物だが、まだ海のものとも山のものともわからない」という例文を英語にすると次のようになる。

John is a possibility for the job, but he's still an unknown quantity. (研究社『新英和中辞典』より)

日本語では「海のものとも山のものともわからない」とあっても、英語表現<It is uncertain. / It is neither flesh nor fish. / It is a matter of uncertainty.>には「海」も「山」も訳出されない。(『斎藤和英大辞典』参照)

## 7. まとめと考察

### 7.1 「秩序立っている状態」と「混乱している状態」

以上の点をまとめてみると「秩序立っている状態」で「プラスまたは中立イメージ」の場合は、音読みの四字熟語になっているが、「混乱している状態」で「マイナスイメージ」になるのが、訓読みの成句・慣用表現である。形態論から整理してみると次の表1のようになる。

表1. 印象の差異

秩序立っている状態、プラス・中立イメージ	混乱している状態、マイナスイメージ
東西南北・古今東西	西も東もわからない
前後左右・上下左右・左顧右眄	右も左もわからない・(右顧左眄・右往左往)
表裏一体	裏表がある・裏表のある人・裏表の差がある
山海珍味・鑄山煮海	海千山千・海のものとも山のものともつかない

ただ、例外は「左顧右眄」が古くは、秩序立っている状態でプラスイメージであったものが、「右顧左眄」でマイナスイメージになったのだが、現在では、両者ともに優柔不断のマイナスイメージの語として使われている。「右往左往」も音読みの四字熟語ではあるが、「右➡左」の順で、秩序に対する混乱(=反秩序)を意味している。

「海千山千」は四字熟語ではあるが、訓読みで日本独自のマイナスイメージの語である。

「東西南北」の「南➡北」は、太陽の当たる「南」を優先し「北」を後回しにしたという背景も考えられる。住居も日当たりのよい「南向き」の方が、寒い「北向き」より価値があり、喜ばれる。果たして「南」がプラスイメージで、「北」がマイナスイメージと言えるであろうか。

「東西南北」自体は中立イメージであるが、「東西南北の人」となると「あちらこちらをさまよい歩き、住所が定まらないひと」の意となりマイナスイメージとなる。(『ことわざ辞典』kotowaza.jitenon.jp参照)

「北枕」は、仏教の祖である釈迦が入滅の際、北の方角へ頭を置いて横になった「頭北面西」(ずほくめんさい)といわれることから来ている。これは仏教が将来、北方で久住するという考えから「頭北」が生まれたものである。ただし、この説は北伝の大乗仏教のみで後代による

解釈でしかない。(『ウィキペディア』「北枕」参照 [https://ja.wikipedia.org/wiki/])

日本では釈迦の故事にちなみ、死を忌むことから、「北枕」は縁起が悪いこととされ、死者の極楽往生を願い遺体を安置する際のみ許されていた。

「北枕」が縁起の悪いマイナスイメージとされる一方で、山口県出身の嘉村磯多(かむらいそた)は、「私小説の極北」と位置付けられていた。「極北」とは、別の表現では、「作者の真正面な切実な表現となった文学は稀有である」(山室静)ということで、「他に類を見ない」という褒め言葉としてプラスイメージで使われている。

## 7.2 拍数による順序性

前述したように「西(にし:2拍)も東(ひがし:3拍)も」と「右(みぎ:2拍)も左(ひだり:3拍)も」は、どちらも2拍語を先に出し、3拍語を後回しにするという語の言いやすさとリズム感が関係しているという説がある。その他の例も加えて次の表2のようにまとめた。

表2. 拍数の差異(評: - マイナス評価、+ プラスまたは中立評価)

拍数の少ない語→拍数の多い語				評	拍数の多い語→拍数の少ない語				評
西(にし)	2拍	東(ひがし)	3拍	-	前(ぜん)	2拍	後(ご)	1拍	+
右(みぎ)	2拍	左(ひだり)	3拍	-	後ろ(うしろ)	3拍	前(まえ)	2拍	-
左(さ)	1拍	右(ゆう)	2拍	+	上(じょう)	2拍	下(げ)	1拍	+
右顧(うご)	2拍	左眄(さべん)	3拍	-	鑄山(ちゅうさん)	4拍	煮海(しゃかい)	3拍	+
裏(うら)	2拍	表(おもて)	3拍	-	表(ひょう)	2拍	裏(り)	1拍	+
古(こ)	1拍	今(こん)	2拍	+	先(せん)	2拍	後(ご)	1拍	+

表2に示したように、確かに拍数の少ない語を先に出し、拍数の多い語を後回しにする例もある一方で、その逆も同程度見られる。ただし、拍数の少ない語を先に出し、拍数の多い語を後回しにする例は、表1の混乱している状態・マイナスイメージが6組中4例である。

表2の右側の拍数の多い語を先に出し、拍数の少ない語を後回しにする例では、表1の秩序立っている状態・プラスあるいは中立イメージが6組中5例である。「後ろ前」だけが、混乱している状態・マイナスイメージの組み合わせである。

## 8. 今後の課題

音読み(漢語的表現)と訓読み(和語的表現)で語順が転倒する例と転倒しない例をさらに収集し、その印象の相違(プラス・中立・マイナス)と音韻面での法則性を明かにしたい。

日本語で「買い物上手」を中国語では「擅长买东西」<shàn cháng/zhang mài dōng xī>と言う。また、日常的な「夕飯の買い物」を中国語で「晚饭的东西」<wǎn fàn de dōng xī>と言うなど、何故か「買い物」が「東西(東西)」という方向性と結びつき、「買い物」が「東西

(東西)」で表されるか、または代行されているようである。

日本語では、「駆けずり回る」の意味で「東奔西走する」を用いる場合はあるが、「買い物」とは限らない。このように日本語の中に方角表現が含まれなくても、外国語の成句・慣用語の中に方角表現が含まれている場合があるので、用例を採取し、整理したい。

また、本稿で触れた「海千山千」と同じように「海彦山彦(うみひこやまひこ)」「海幸山幸(うみさちやまさち)」のように一見して漢字四字熟語であるが、音読みではなく訓読みの場合の由来と意味用法についても、実際の用例を採取し、整理したい。

さらにアメリカの「南北戦争」(1861-1865)は、英語では<American Civil War>といい、「南北」という方位表現は含まれていない。アメリカ合衆国の北部諸州とアメリカ連合国を称した南部諸州との間で行われた内戦で、南軍が火ぶたを切ったものの北軍の勝利で終わったのに、なぜ「南北戦争」と「南➡北」の順で言うのか、疑問が残る。

また、朝鮮統一問題は、「朝鮮半島が南側の大韓民国(韓国)と北側の朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)に分裂している状況を改め、最終的には単一政府の施政によって朝鮮を再統合することである。現在南北朝鮮は政治的に分断されているが、両国とも『一国としての朝鮮』の成立が最終目標であると公言している」。(『ウィキペディア』「朝鮮統一問題」より引用、<https://ja.wikipedia.org/wiki/>)「南北会談」「南北朝鮮」「南北両政府」などと「南➡北」の順で言い習わしているのには、何か理由があるのであろうか。

その他の歴史・政治・経済分野の用語であっても、言語学的な観点から、分析してみる必要があると思われる。

中国語の成句で「南腔北調」<nán qiāng běi diào>があり、「あちこちの方言が混じっている」という意味で、マイナスイメージの「混乱義」に当たると思われる。

さらに中国古典の『戦国策・魏策四』は、中国、周の安王(紀元前402即位)から秦の始皇帝にいたるまでの約250年間の縦横家の権謀術策を12ヶ国に分けて書いた書であるが、その中には「南轅北轍(南轅北轍)」<nán yuán běi zhé>という成句がある。「かじ棒は南を向いているにもかかわらず、車輪の跡は北向きに付いている」という意味から「意志と行動が矛盾していること」のたとえとして用いられている。「行動と目的が相反する」という意味で、行動の一貫性がなく、矛盾していて「混乱している状態」を表し、「マイナスイメージ」になる。ちなみに「轅」は前進する方向に向けられるかじ棒のこと。「南轅北轍」の日本式の発音は、「なんえんほくてつ」となる。(『四字熟語辞典オンライン』参照)

現代日本語で「南➡北」を含む混乱義に当たるマイナスイメージの成句・慣用語表現は見当たらないが、中国と日本の古典の世界ではどうであるのかを検索し、調査してみたい。

(注1)「左右」の上下関係については、山内昶(2001)『ものと人間の文化史96・食具(しょくぐ)』(法政大学出版局)参照

**【参考文献】**

金田一春彦監修（2001）『イラストことわざ辞典』学習研究社

林伸一（2015）「列挙・例示の書き表し方について」『山口大學文學会誌』第65号、35-64頁、  
山口大學文學会

[謝辞] 本稿をまとめるにあたって、山口大学東アジア研究科コラボ研究員の閻曉玲博士よりの情報提供やアドバイスをいただいたことに感謝したい。また、山口大学人文学部国語国文学会の研究発表の際に、貴重なご意見やご指摘をいただいた方にも、この場を借りて謝意を表したい。